医療機関に経営上の少ないことが理由で、メリットが普及が遅れ予約待ちに

ハイパーサーミアで問われる「求められるがん治療とは」

抗がん剤の有効性と危険性が論争の的となるなか、その副作用を軽減し、従来の抗がん剤・放射線・手術によるがん治療の効果を高める「ハイパーサーミア（温熱療法）」が注目を集めている。

全国のがん患者会が集まって、がん治療に関する要望書をまもなく政府に提出する。これは「手を尽くしたガン医療を日本政府に要請する会」が、がん治療難民と呼ばれる人々の病状と生存期間が改善されるように、また新たなガン治療難民を生み出さないために、10項目の提案をまとめたものだ。同会は昨年9月に東京で第1回代表者会議を開催し、その後も会議を重ねて要望内容を検討してきた。その重点項目として、ハイパーサーミア治療の推進が掲げられている。

温熱で免疫力を高め、抗がん剤の副作用軽減

岡山県倉敷市のすばるクリニック院長で、ルイ・パストゥール医学研究センター客員研究員の伊丹仁朗医師は、11の患者会が参加する「手を尽くしたガン医療を日本政府に要請する会」の事務局を務めている。伊丹医師は長年、「生きがい療法学習会」を各地で開いてきた。

「がん診療拠点病院などで、もうこれ以上治療法はありません、といわれて相談にみえる方が多い。手を尽くしたがん医療が行なわれていない現状と、もっと多角的な治療が必要であることをひしひしと感じます。例えば、ハイパーサーミアを従来のがん治療に併用すると、免疫力を高め、生存率がぐんと上がります」

本誌は昨年10月22日号で、4期の胃がんと診断された医師が自らハイパーサーミア治療も受けて奇跡的にがんを克服したことを報じている。日本で保険適用になっているハイパーサーミアは、高周波を利用するサーモトロン-RF8という装置で、体の表面から深部まで加温する治療法だ。元来、熱に弱いがん細胞を42～44℃で死滅させる目的で開発されたが、最近ではがん周辺の正常な細胞を42℃以下の低い温度で活性化させ、免疫力を高める働きのほうも注目されている。がん細胞内への薬剤の取り込み量が増大し、放射線の効果も増強されることも分かってきた。

福岡県北九州市の社会医療法人共愛会戸畑共立病院の今田肇・がん治療センター長は、放射線、化学療法併用のハイパーサーミアで効果を上げている。「最大の利点は、抗がん剤の量を減らしてその副作用から患者さんを解放し、長期にわたる治療が可能になることです」。肺がんに抗がん剤とハイパーサーミアを併用した場合、がんの消失・縮小効果を表わす奏効率は、薬剤単独の倍以上という。

「治療には準備も含めて1時間ほどかかります。通院で何回でも受けられる、患者さんにやさしい治療法です」と近藤元治・千春会ハイパーサーミアクリニック院長

従来の治療と併用可能 末期まで対応できる

群馬大学第一外科の浅尾高行准教授は、直腸がんの手術前に行なう温熱化学放射線療法により、進行がんでも人工肛門がいらない肛門温存手術の可能性が高まるという。

「群馬大では術前の放射線療法に、温熱療法と化学療法を併用しています。3者併用では、顕微鏡で見てがんが消失した例が27・4％、CTや内視鏡でがんが認められない例が54・9％になりました。新しい肛門温存手術により進行下部直腸がんの自然肛門温存率は90・2％に上っています」

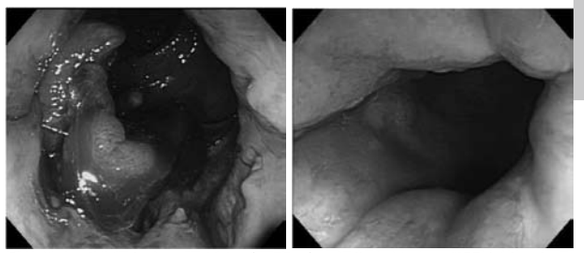
ハイパーサーミアは脳と眼球を除く全身のがんに適用可能で、副作用がほとんどない。しかし、治療施設は全国で約70か所と、まだまだ不足している。普及しない理由は、一連の治療をまとめたものに対して保険点数が決められており、何回治療しても定額で、医療機関にとって経営上のメリットが少ないこと。設置施設が全国のがん診療拠点病院中5％にも満たないため、がんの専門医がこの治療法を理解していないといったこともある。

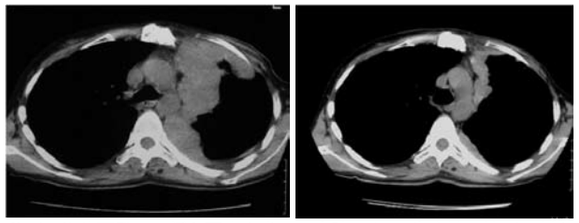
患者の予約待ちが続いている千春会ハイパーサーミアクリニック（京都府長岡京市）の近藤元治院長（京都府立医科大学名誉教授）は、この治療の恩恵にあずかれない人が多い現状を改める必要があるという。

「ハイパーサーミアは末期がんまで対応可能で、QOL（生活の質）が良好に保たれ、長期生存が可能になります。がん治療は、あきらめてはいけません。この良い治療法をぜひ体験していただきたい」

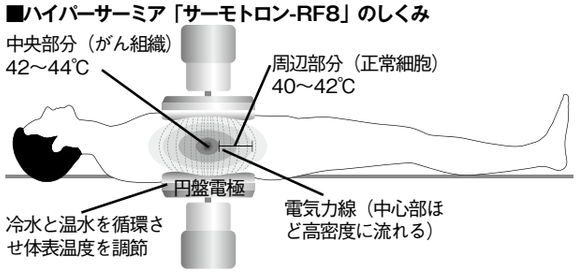
誰もがん治療難民になり得る時代、希望の持てるがん治療の選択肢がもっと広がってほしい。

取材・文／真並恭介


括約筋まで進行した直腸がん（写真左）。温熱化学放射線療法後、内視鏡的には腫瘍は消失している（写真右）。このあと括約筋の一部を含めた直腸切除術（内括約筋合併切除術）を行ない、肛門は温存できた（資料：群馬大学大学院提供）


乳がん術後再発で、緩和医療を求めて来院した39歳女性。抗がん剤を拒否されたので、ハイパーサーミア単独治療を26回続けた。乳がんの肺内浸潤が驚くほど縮小し（写真右）、飛行機で旅行に出かけるなど素晴らしいQOLが得られた（資料：近藤元治医師提供）

■ハイパーサーミア「サーモトロン-RF8」のしくみ



ハイパーサーミアとは、がんの部分の温度を上昇させる治療法。治療には、8MHzの高周波で分子摩擦熱を発生させるサーモトロン-RF8を使用。中心部は42～44℃でがん組織の直接的致死効果、周辺部は40～42℃で正常細胞活性化、宿主免疫活性化などの効果がある

浅尾高行・群馬大学大学院准教授

今田肇・戸畑共立病院がん治療センター長

「がん治療の体験者が『患者力』を発揮して交渉した結果、国立病院機構に属する地方のがんセンターがハイパーサーミア治療装置のある病院を紹介するような動きも出てきています」

伊丹仁朗・すばるクリニック院長

第227回生きがい療法京都定例学習会が1月22日、長岡京市で開催された。患者が笑いのネタを考えて披露する「笑わせ療法」、伊丹仁朗医師による「がん医療最新情報」と個人闘病相談があった

ハイパーサーミア治療が受けられる医療機関一覧
毎日健康サロン ホームページ http://www.mainichi-kenko.jp/